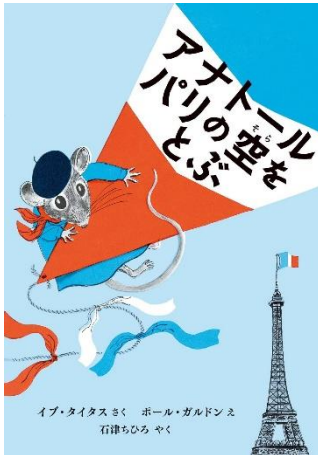


# 福井県優良図書

令和7年6月分

○アナトール パリの空をとぶ  
イブ・タイタス // さく ポール・ガルドン // え  
石津ちひろ // やく 【幼児～】



好学社 ¥1,760 円 (税込み)

働き者で賢いネズミ：アナトールがひよんなことから妻と可愛い6人の子ども、そして親友のネズミと一緒に凧に乗ってフランスの空を飛んでしまう物語です。ネズミの視点で、困難に遭遇した時にどう対処すればよいのか、とても分かりやすく描かれております。また妻も友人もそして子ども達も、アナトールを信頼してすべてを任せているという強い絆も描かれております。

これから様々な経験をして、色々な予想外の困難にぶつかることが想定される子ども達にとっても良い示唆を与えてくれる絵本になるとと思います。

○くよくよしてもしかたがない！  
ワンダ・ガアグ // 再話・絵 小宮由 // 訳  
【小学校低学年～】



瑞雲舎 ¥1,650 (税込み)

作者のワンダ・ガアグさんが以前出された昔話の新訳本。

奥さんの家での仕事が楽そうだった旦那さんは、外での仕事と交換してみたいと。子供や犬や牛、ヤギ、ぶた、がちょうの世話で次々トラブルが発生するも「くよくよしてもしかたない」と前向きに取り組む旦那さん。その様子を見た奥さんも「明日はもう少しうまくできるんじゃない」と大らかに受けとめる。「二人はいつまでも仲良く暮らしました」と最後に締めくくりホッとする作品です。

○魔女がやってきた！  
マーガレット・マーヒー // 作  
尾崎愛子 // 訳 はたこうしろう // 絵  
【小学校高学年～】

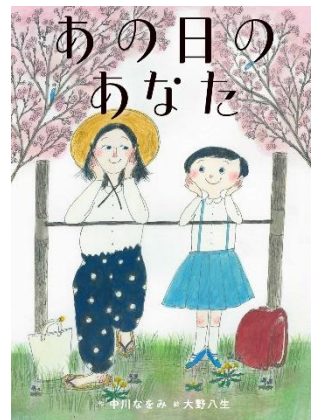


徳間書店 ¥1,650 (税込み)

「サクラの木の上的魔女」「ふたつのかけを持った男の子」「ほうき入れの王さま」「魔女のお医者さん」「イジワルおばさん」という5つの物語から構成されている。それぞれの物語に親しみのある魔女が登場し、簡潔な表現で書かれており楽しく読むことができる。一つ一つの物語がわかりやすく、小学校中学年～高学年児童が楽しく読める内容である。

この書物が切っ掛けになり、読書に興味を持つ児童が増えるような気がする。

○あの日のあなた  
中川なをみ // 作 大野八生 // 絵  
【小学校高学年～】



くもん出版 ¥1,650 (税込み)

不思議な転校生との交流によって自分を見つめ直し、成長する主人公・しずりの物語。

よそからやってきた友達が、しずりに刺激を与え、前を向かせた。家族や村の人々との絆を深めることが大事であると同時に、新しい友人関係を求めることは自分を変化させるチャンスでもあり、大事なことだ。

転校生を迎えるという経験は、一般の子どもたちにもあるもので、この本を読んで、新しい友達に飛び込んでみようという思いになればいい。

○恐竜のあたまの中をのぞいたら  
—脳科学でさぐる恐竜の感覚—  
大島英太郎 // 作 河部壮一郎 // 監修

【幼児～】



福音館書店 ¥1,760 (税込み)

本書は、小学生の高学年であろう男の子が、恐竜の研究をしているおじさんと博物館に行つて、恐竜の化石、それもあたまの化石を観察しながらその恐竜が生きて動いていた頃の様子を教えてもらっていくという絵本である。

絵本ではあるが、恐竜の世界に引き込まれてしまう「恐竜図鑑」といっても過言ではない図書である。

子どもはもちろん、様々な年代の方に手に取って読んで頂きたい一冊である。

○にじをかけたむすめ  
宝迫典子 // 文 後藤仁 // 絵  
【小学生（低学年）～】

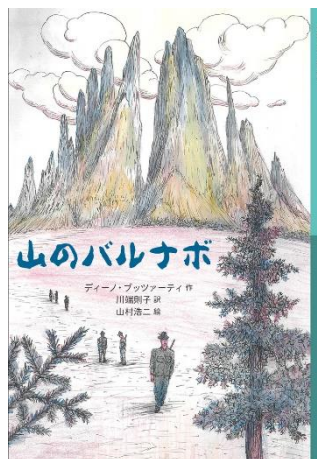


B L出版 ¥1,980 (税込み)

小さな村に古くから語り継がれてきたお話は、鮮やかで美しい彩色の絵とともに、現代の子供たちにもすんなり受け入れられるだろう。

主人公となる娘が、生まれ育ったふるさとを愛し、伝統の刺繍技法を大切に守り継ぎ、たとえ辛い環境にあっても信念を曲げず、やがては人々のために虹をかけるというストーリーは、時代を超えて、心に留めたいメッセージとなっている。

○山のバルナボ  
ディーノ・ブツァーティ // 作  
川端則子 // 訳 山村浩二 // 絵【中学生～】



岩波書店 ¥869 (税込み)

静かな山岳地帯で国境を守る警備兵バルナボは、厳しくも美しい自然の中で、淡々とした日々を送っています。しかし、ある事件をきっかけに、自分の弱さと向き合うことに。

この物語は、静けさの中にある「勇気」や「成長」、そして「責任」とは何かを問いかけます。

華やかな冒険や劇的な展開はないのですが、読み進めるほどに心の奥に染み入るような感動がありました。

自分自身と向き合いたいとき、静かな時間を過ごしたいとき、ぜひ手に取ってみてください。

○くらしをささえる乗りもの 飛べ！山小屋ヘリコプター  
星野秀樹 // 写真 池田菜津美 // 文  
【小学生（高学年）～】



新日本出版社 ¥2,860 (税込み)

山小屋に荷物を運ぶ特殊なヘリコプターの機体や仕事ぶりについて、写真に文や図を付けて詳しく説明している本です。

谷や山でもコントロールしやすい小さい体なのにとっても力持ちのヘリコプターは、「ぼく」と称して、機体の特徴や山小屋の暮らしを支えている様子を楽しい話し言葉で説明します。ふもとのヘリポートから槍ヶ岳や周辺の山にある山小屋を何度も往復して、1週間分の大量の食糧や燃料などをロープでぶら下げて運ぶある1日が紹介されています。

内容は大人にとっても興味深いもので、親子で一緒に読みたい本の一冊だと思います。

○いえができるよ  
バイロン・バートン // さく  
なががわちひろ // やく【幼児～】



好学社 ¥1,650 (税込み)

1981年にアメリカで発行され、2024年に翻訳された絵本です。何もない原っぱに一軒の家が建ち、家族が引っ越してくるまでが分かりやすく描かれています。

家が上がるまでの土台から床…と順番に造られていく行程は小さな子どもでも分かりやすく、2、3分で一気に読めてしまいます。読み聞かせをする大人もわくわくしながらページをめくることのできる興味深い一冊です。

昨今、子ども達は家が上がるまでの職人さんの仕事をじっくりと見る機会が少ないので、知らない世界をのぞきこんだ気持ちになるかもしれません。

○インターネットのぼうけん  
内田智子 田中知可子 松村桃花 水上真梨子 // 絵・文  
【小学校低学年～】



橋本確文堂 ¥1,650 (税込み)

インターネットの裏側にある危険な世界を探検する話でした。暗い道を進むと、そこには、人をわなにかけようと企んでいる者がいました。インターネット上のボタンを押すと、そこから犯罪につながるようなしかけを作っている人です。インターネットを使えば、何でもできると言ってもよい程、便利な世の中になってきましたが、そこには危険な落とし穴もある、そのことに注意を促す絵本です。幼い子ども達が、ネットを使う時に気をつけなければならない事を教えてくれる貴重な絵本だと思います。

# 福井県優良図書

令和7年10月分

○中国のフェアリー・テール  
ローレンス・ハウスマン // 作 松岡享子 // 訳  
【小学校高学年～】



福音館書店 ¥1,870 円 (税込み)

ティキ・プーは大きな画塾で下働きをしている少年ですが、魂の奥底には誰よりも芸術への想いが熱く燃えていました。画塾の壁には三百年前に生きていた大家ウイ・ウォニの絵作品がかかっていました。「ウイ・ウォニ先生に教わりたい」という強い思いが通じとうとうある夜、絵の中から老画家が現れ彼を絵の中へ招き入れます。絵を描きたいという強い思いを持つ貧しい少年と、はるか昔に世を去った偉大な画家との時を超えた不思議な交流を描いたこの本は文章からあふれ出る色彩と浮遊感のある物語のおもしろさをこどもたちに味わってもらいたいです。

○たい焼き総選挙  
新井けいこ // 作 いちろう // 絵  
【小学校高学年～】



あかね書房 ¥1,430 (税込み)

拓都は商店街のたい焼きが大好き。お店が休業になることを聞き、お店のピンチにチームを結成して乗りだします。その中でお金をかせぐことの難しさ、食品ロスの問題、統計を取るこの大切さがわかりました。アンケートをきっかけにお客さんとのコミュニケーションも取れるようになり、たくさんの人と知り合いになりました。一つのことを突き詰めていくことで興味の幅も広がり、一つの関門をくぐれば次の活路に通じます。体験は成長の糧と言えます。主人公はたい焼き屋さんを通して社会を知り、将来の自分を想像するのが楽しくなってきました。

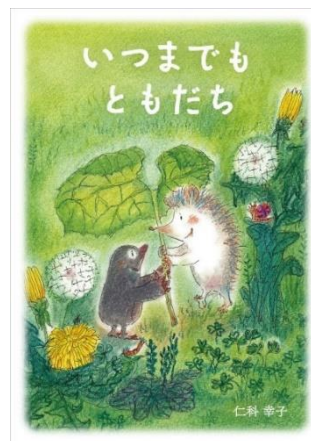
○ミツツボアリをもとめて  
アボリジニ家族との旅  
今森光彦 // 文・写真  
【小学校高学年～】



偕成社 ¥1,760 (税込み)

オーストラリアの砂漠で先住民の家族とともにミツツボアリを探す旅を、圧巻の写真でたどる一冊である。食や衣、暮らしの違いに驚かされつつ、写真から伝わる人々の笑顔から幸福感が伝わる。読書が得意でない児童生徒にも勧めやすく、理科や地理の学習にも生かすことができると考える。

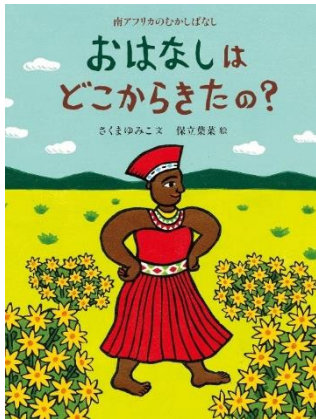
○いつまでもともだち  
仁科幸子 // 作・絵  
【幼児～】



偕成社 ¥1,650 (税込み)

ハリネズミとモグラが会って友達になり、一方が老いて亡くなり、一方が見送る話です。互いを知らず、一方的な誤解に基づいて理解しようとはしますが、理解が深まるほどに、お互いを大切にしたい、喜ばせたい気持ちがふくまれます。モグラは、視力がないけれど、ハリネズミは美しい風景を共有したいと願い、それがかなわないことと知ります。一方モグラは触れることや特に匂いによって、世界を深く受け止める様子が語られます。多様性を尊重する体験感情を、この物語は教えてくれていると思いました。死との向き合い方も語られています。

○おはなしはどこからきたの?南アフリカのむかしばなし  
さくまゆみこ // 文 保立葉菜 // 絵  
【小学生(低学年)~】



BL 出版 ¥1,980 (税込み)

こどもたちからおはなしを聞かせてと言われたお母さんマンザンダバは、村人たちに聞いてもだれも知りません。そこでマンザンダバはこどもたちの願いを叶えるため、おはなしを探す旅に出かけます。マンザンダバが海の深い底の宮殿で出合った王と王妃に、自分たちが暮らす様子を木彫りで教える展開から、アフリカの暮らしが見えてきます。また、挿絵が色彩鮮やかでやさしい風合いでアフリカの暮らしや、人々の装飾も楽しむことができます。

本を閉じた後…貝がらをそつと耳にあててみたくなります。

○それゆけ!ばあちゃんぐんだん!  
ジュディス・カー // 作 木坂涼 // 訳  
【幼児~】



好学社 ¥1,870 (税込み)

みんな自分の特技をもっている「ばあちゃん軍団」は、一番若くても82歳!

ある日、気球に乗っていたメイヴィスばあちゃんがどろぼうを発見します。すぐに仲間が集まり、それぞれの特技を生かして、どろぼうを退治してしまう…そんな痛快で愉快な物語となっています。優しい絵とユーモアあふれる展開に、だれもが笑顔もらえる楽しい絵本です。

身近な存在である「おばあちゃん」が主人公であることで親しみやすさもあり、こどもから大人まで一緒に楽しめる作品だと感じました。

○巨石運搬!海をこえて大阪城へ  
鎌田歩 // 作  
【幼児~】



アリス館 ¥1,760 (税込み)

大阪城の石垣を作るために、瀬戸内海の島から、大きな石が切り出され、運ばれていく様子が描かれています。

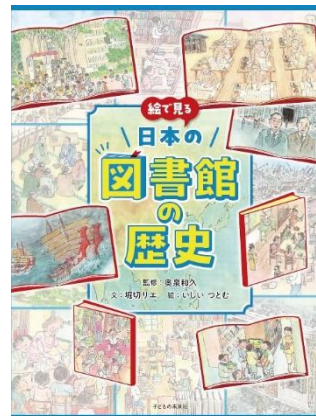
大人でも、こんな風に石を切り出すのか、こんな風に船に石を乗せるのかと、興味深く読むことができます。

また、石工たちの目利きの様子、たくさんの石工たち一人ひとりの確実な作業が協力的に行われ、大きな石の切り出しに至るところは、読んでいてわくわくします。

たくさんの人達の丁寧な仕事により、大きな城が築かれたことがよくわかり、お城を見るときの注目点が増えそうです。

○絵で見る日本の図書館の歴史

奥泉和久 // 監修 堀切リエ // 文 いしいつとむ // 絵  
【小学生(高学年)~】



子どもの未来社 ¥3,300 (税込み)

本書は、図書館の成り立ちと変遷を豊富な図版と絵を通してわかりやすく描いた一冊です。

文字の誕生や紙の発明から始まり、図書館の前身ともいえる施設から、近代的な図書館が導入されて現代に至るまで、図書館がどのように変化してきたのかを丁寧に追っています。

普段利用している図書館がどんな場所なのかを知ること、これまでとは違った視点で図書館を見ることができでしょう。

あらためて「図書館とは何か」を考えてみる良い機会となり、こどもたちが公共施設の意義を学ぶきっかけを与えてくれます。

○子ねずみウォルターはのんびりや  
マージョリー・フラック // 作・絵  
おびかゆうこ // 訳  
【小学生（高学年）】



徳間書店 ¥1,760（税込み）

のんびりやの子ねずみ・ウォルターは失敗もありますが、自分らしさを大切にしながら工夫して成長します。仲間に受け入れられ、自分らしく生きることや勇気をもつことの大切さ、ちがいを認め合うことで互いを尊重する心などを学んでいきます。たくさんの人と接する中で、自分らしく、またちがいを認め合うことは大切だと感じさせてくれるお話です。

○ここは、ようかいチビッコえん  
ヒュードロ・タウンのようかいたち  
富安陽子 // 文 大島妙子 // 絵  
【幼児～】



福音館書店 ¥1,320（税込み）

ここはヒュードロ・タウンの妖怪チビッコ園。たくさんの妖怪がいて可愛らしく、楽しそうな雰囲気。赤鬼先生がきちんと出欠を取るの、妖怪を知らないこどもたちにもわかりやすいです。歌って、遊んで、散歩して、よく遊び、よく学び、よく食べて、妖怪のこどもたちの保育園も、私たちの保育園と同じなんだなと楽しめる本だと思います。

そして、妖怪のこどもたちの特徴を、赤鬼先生はよく掴んでいて、その時々に対応が素晴らしい。絵だけを見ても楽しめる1冊だと思います。

# 福井県優良図書

令和8年1月分

## ○ひろい海にぼくたちは生きている

長倉洋海 // 作

【幼児～】



アリス館 ¥1,980 (税込み)

地球をすっぽり包み込む海。三つの海をめぐりそこに暮らす人々の生活、子ども達の遊びを描いた一冊である。

東南アジアに広がるスルー海。体ひとつで海に潜って、魚や貝やエビなどをとって暮らす人々たち。

スルー海から東へ向かったそこはカビンガマランギ環礁。自給自足の生活をしている赤道直下の小さな島だ。

スルー海から西に向かう海流にのるとアフリカのマダガスカル島に着く。異なる民族が境界をつくらず共に生きてきた、さまざまな人と文化を繋いだ海である。

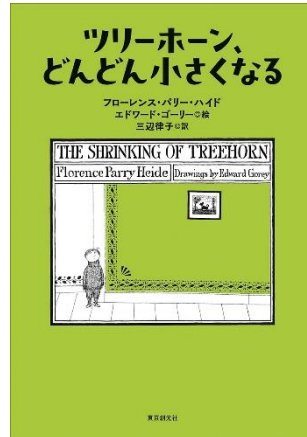
様々な世代の方に読んで欲しい良書だと思います。

## ○ツリーホーン、どんどん小さくなる

フローレンス・パリー・ハイド // 著

エドワード・ゴーリー // 絵 三辺律子 // 訳

【小学校高学年～】



東京創元社 ¥1,980 (税込み)

主人公のツリーホーンの体が縮んで、どんどん小さくなっていくという話である。お母さん、お父さんに訴えるが、初めは信じてもらえない。しかし、やがて、本当だと気づき、どうしようと二人は悩む。それから、小さくなった主人公が、友達のモシー、スクールバスの運転手、学校の先生、校長先生等会遇到、小さく縮んだが故のいろいろな体験をする。そして、自分の趣味のおかげで、元の体に戻っていく。奇想天外な話であるが、ごく普通の日常生活の中で物語は展開されている。日常と非日常が入り交じりながら、描かれているところがおもしろい。

## ○そうだったのか!カタツムリとナメクジ

嶋田泰子 // 著 はたこうしろう // 絵

【小学校低学年～】



童心社 ¥1,430 (税込み)

作家は、カタツムリとナメクジの観察日記を通し、ふたつの生物の違い、共通点を見つけ出していく。

カタツムリの動く速度を知りたいという素朴な疑問から始まり、どのように命をつないでいくのだろうか、好奇心はどんどん広がる。

ひらがなと平易な漢字での文体で、挿絵も楽しく、低学年児童でも、興味をもって読むことが出来るだろうが、生殖メカニズムや食物連鎖、天敵といった内容を正しく理解するには、理科学習が進んだ高学年児童向けの読本かと思われる。

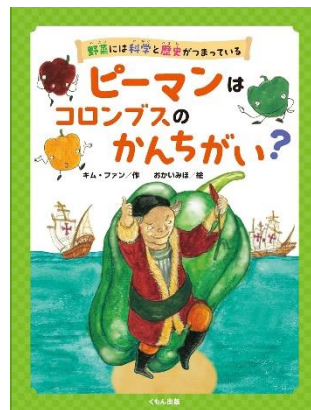
日々何気なく接する光景から、気づき生じる問いかけに、親子一緒になって考える時間が持てたなら面白い。

## ○野菜には科学と歴史がつまっている

ピーマンはコロンブスのかんちがい?

キム・ファン // 作 おかひみほ // 絵

【幼児～】



くもん出版 ¥1,760 (税込み)

今から500年以上前、冒険家コロンブスは、コショウを求めて、スペインからインドへ買いつけに出ました。ところがコロンブスがたどり着いたのはアメリカ大陸。トウガラシをコショウと勘違いして持ち帰りました。ヨーロッパに渡ったトウガラシは、ホットペッパーやピーマン、ペペロンチーノと各国違う呼び名で広がりました。トウガラシを食べやすくする為、ハンガリーではパプリカ、アメリカではピーマンが生まれました。

このコロンブスの勘違いでピーマンは世界に広がり、料理を彩り華やかにしています。コショウはどのように広がったのか調べたくなりました。

○カルディコット・プレイスの子どもたち  
ノエル・ストレートフィールド // 作 尾崎愛子 // 訳  
【小学生（高学年）～】

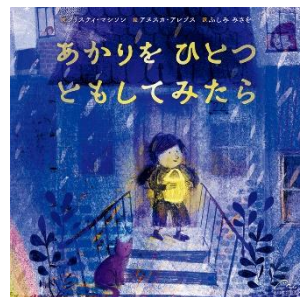


偕成社 ¥1,870（税込み）

ロンドンの郊外で幸せに生活していたジョンストーン一家だったが、父親が事故に遭ってしまい途方にふけていた。ところが、子どもたち三人が思いがけなく田舎の豪邸を相続することになり、そこでの出来事が楽しく語られている。優しい家の持ち主が、お金のない子どもたちと楽しく暮らす様子が心温かく語られている。読んでいて人の温もりを感じる物語である。

人の気持ちを大切にそしてその温かみを大切に周囲の人と接することの大切さを読み取ることができる。周囲の人と日々接して心温かさをを感じる大切さを覚えてもらいたい。

○あかりをひとつとしてみたら  
クリスティ・マシソン // 文 アヌスカ・アレプス // 絵  
ふしみみさを // 訳  
【幼児～】



光村教育図書 ¥1,760（税込み）

本作品は、明かりが消えた町を前に「ひとりぼっち」になったような寂しさを感じたコトリちゃん、同じ思いをする人を少しでも減らしたいと願い、らんとんに火を灯して家の前に置くところから始まります。その小さな明かりを見た通行人が心を温められ、同じように自宅で明かりを灯すことで、やがて町全体へと明かりが連なっていきます。

子どもにも理解しやすい内容でありながら、現代社会における人と人とのつながりについて、大人にも改めて考える機会を与える作品であり、青少年の情操涵養に十分資する優良な絵本であると評価できます。

○イチからつくるピザ  
小田原学 // 編 坂之上正久 // 絵  
【小学生（低学年）～】

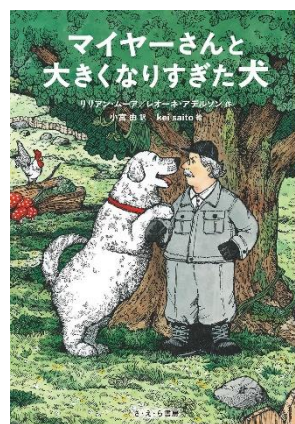


農山漁村文化協会  
¥2,750（税込み）

ピザがどのように作られているのかを、小麦やチーズ、トマトなどの材料がどこから来て、どんな手順でピザになるのかを「イチから」わかりやすく紹介しています。さらに、ピザの成り立ちや食文化の歴史についての解説もあり、食べ物の人々のくらしとどのように関わってきたのかを学ぶことができます。

身近なピザを通して、「食とは何か」「作るとはどういうことか」を考えるきっかけを与えてくれる一冊です。ピザ生地の作り方は写真付きのレシピで丁寧に解説されており、親子で一緒に作る楽しさも味わえ、この本と一緒に調べ学習や自由研究をしてみてもどうでしょうか。

○マイヤーさんと大きくなりすぎた犬  
リリアン・ムーア // 作 レオーネ・アデルソン // 作  
小宮由 // 訳 kei saito // 絵  
【幼児～】



さ・え・ら書房  
¥1,650（税込み）

人間と犬が心を通わせる、楽しくて心温まる一冊です。ノンディ家の飼い犬「バターボール」は、どんどん大きくなって、大人と同じくらい成長します。人の役に立つことが大好きなのに、それが理由で思わぬトラブルを次々と起こしてしまい、問題のある犬を捕まえる捕獲人のマイヤーさんに連れていかれます。のら犬や飼い主に捨てられた犬を引きとるマイヤーさんは、町の人達に恐れられています。最後は、マイヤーさんの意外な素顔が分かり、登場する全ての人・犬がハッピーエンドとなります。

人の温かみ、生命の大切さも伝わってきます。

### ○しずかなよる

ジル・マーフィ // 作・絵 木坂涼 // 訳

【幼児～】



ひさかたチャイルド  
¥1,650 (税込み)

ぞうパパの誕生日の朝、ぞうママは、4人の子どもたちに「今夜は早く寝て、パパをゆっくり静かに過ごさせてあげましょう。」と言います。早く寝ることに不満たらたらの子どもたちですが、カード作りやテーブルの飾りつけをしてパパを迎えます。でも、疲れて帰ってきたパパは、ソファにぐったり。子どもたちは、パパに本を読んで欲しいとせがみます。読み始めたパパですが、すぐに寝落ち。その続きをせがまれたママも寝落ちしてしまいます。

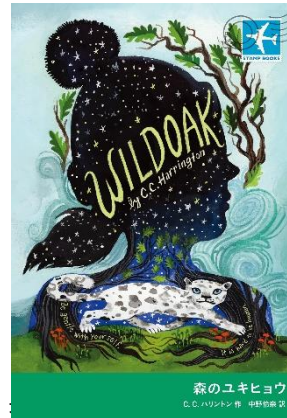
子育て中の親にとっては、「あるある」の情景で、やわらかな色調の絵と共に、家族の思いやりに親も子も心温まる絵本だと思います。

### ○森のユキヒョウ

C.C.ハリントン // 作

中野怜奈 // 訳

【小学生(高学年)～】



自然と人間の再生を重ねた物語である。吃音に悩む少女マギーがユキヒョウの子と出会い、森を守るために声を上げる。

マギーは人とうまく話せないことで苦しみ、孤独や劣等感を抱えながら日々過ごしている。不思議な力に満ちた太古の森で、ユキヒョウの子と運命的に出会う。言葉ではなく心で通い合う存在は、マギーにとってかけがえのない友となり、彼女の閉ざされた心を少しずつ解きほぐしていく。森は人間による開発や破壊が忍び寄り、ユキヒョウや木々の住処が失われようとしていた。マギーはうまく言葉にできないが、守りたいという思いが後押しし、声を振り絞り、声を上げる。

自らの弱さを抱えながら立ち上がる姿に読者は「声を上げる勇氣」に気付かされる。